

## Impact of Glissonean Pedicle Approach for Centrally Located Hepatocellular Carcinoma in Mongolia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Chinburen, Jigjidsuren メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/31322">http://hdl.handle.net/10470/31322</a>

## 主論文の要旨

Impact of Glissonean Pedicle Approach for Centrally Located Hepatocellular Carcinoma in Mongolia

モンゴルにおける肝中央部に存在する肝細胞癌に対するグリソン鞘一括処理肝切除

東京女子医科大学消化器外科学教室  
(主任：山本雅一教授)

Jigjidsuren Chinburen

International Surgery 第 100 巻 第 2 号 268 頁～274 頁 (平成 27 年 2 月発行)  
に掲載

### 【要 旨】

モンゴルでは肝中央部に存在する肝細胞癌についてはこれまで半肝切除やより拡大切除を行ってきた。しかし、既存の肝障害のために高率に術後合併症を生じる。2008年にモンゴルではグリソン鞘一括肝切除を導入した。グリソン鞘一括肝切除は特に肝中央部に存在する肝腫瘍に対しては新たな肝切除法として注目される。肝中央部に存在する肝細胞癌に対して69例の患者で後方視的に検討を行った。半肝切除や拡大切除による従来の方法に対して、グリソン鞘一括処理による肝中央切除を比較検討した。グリソン鞘一括肝切除では従来法と比較して、術中出血、合併症、在院日数、術死亡率、術後生存に関して同等あるいは有意に良好であった。従来法の術後1, 3, 5年生存率は74%、64%、55%に対し、グリソン鞘一括処理肝切除の1, 3年生存率は88%、61%であった。グリソン鞘一括処理は肝中央部に存在する肝細胞癌に対して安全で有用な手術手技と考えられた。